

第1学年2組 算数科学習指導案

1 題材名 いくつといくつ

2 題材について

- (1) 本学級の児童は、「10までのかず」の学習において、10までの数やその数え方についての理解を深めることができた。しかし、児童の中には一方の数を指定され、もう一方は何になるかを理解しきれていない子もいる。児童は10までの数字を使ったゲームを好んでいるという事もあり、ブロックを用いて、見えているブロックから隠れているブロックの個数を推測するという活動にゲームを交えて取り組んでいく。
- (2) 本題材では、「小学校学習指導要領」第一学年の内容 A(1)「ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることが出来るようにする。」をねらいとしている。数字カードといった具体物を用いた算数的活動を通して、9という数が二つの数の組に分けられるという事を児童が自ら見つけたり、気づいたり、理解したりできるように指導していきたい。
- (3) 本時では、まず、ブロックを使って10を作る活動を設定する。児童二人で行い、結果を記録する。9のときは数カードのみ使用していたため、今回は半具体物（ブロック）を使い、見て数を確認できるようにすることで、つまづいている子どもでも取り組みやすいようにする。また、結果を分かりやすく1と9、2と8のような順番におはじきで並べることで、一方が増えるともう一方が減ることや、9と1、1と9のように数が逆になっても10になることに気づくことができるようにする。そして、本時を通して、10という数を、4と6、5と5といった2つの数の組み合わせでとらえることができるようにする。

3 題材の目標

- 一つの数をいろいろな見方でとらえようとする。 (算数への関心・意欲・態度)
- 5から10までの分解を通して、数は固定したものでなく、いろいろな要素で構成されていることを見出している。 (数学的な考え方)
- おはじきだけでなく、数図や数のブロックなどいろいろなものを通して、数の分解ができる。 (数量や図形に対する技能)
- 10までの数についての分解を理解している。 (数量や図形に対する知識・理解)

4 評価規準

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形に対する技能	数量や図形に対する知識・理解
○一つの数を、いろいろな見方でとらえようとする。	○5から10までの分解を通して、数は固定したのではなく、い	○ブロックを用いて、「10はいくつといくつ」といった見方や	○10までの数についての分解を理解している。

<p>○一つの数についての学習が、他の数の学習に関心を持って進めるようにする。</p> <p>○おはじきだけでなく、数図や数カード、ブロックなど、いろいろなものを用いた算数的活動を充実させる。</p>	<p>ろいろな要素で構成されていることを見出している。</p> <p>○具体的な場面を通して、具体的に扱い、次第に半具体物、さらに数の見方へと指導を段階的に進めるようにする。</p>	<p>表現ができる。</p> <p>○おはじきだけでなく、数図や数のブロックなどいろいろなものを通して、数の分解ができる。</p>	<p>○10までの数について、二組に分解した結果を考察し、その規則性を理解している。</p>
--	---	---	--

5 題材の指導計画 (6時間扱い)

- (1) 5を3と2、1と4のように、二つの数の組としてとらえる。…………… 1時間
 - (2) 6を3と3、1と5のように、二つの数の組としてとらえる。…………… 1時間
 - (3) 7を3と4、1と6のように、二つの数の組としてとらえる。…………… 1時間
 - (4) 8を2と6、3と5のように、二つの数の組としてとらえる。…………… 1時間
 - (5) 9を3と6、5と4のように、二つの数の組としてとらえる。…………… 1時間
 - (6) 10についても、二つの数の組としてとらえるとともに、順序よく並べる活動を通して規則性を見つける。…………… 1時間
- (本時6 / 6時)

6 本時の学習指導 (6 / 6時)

(1) 目標

○10を4と6、7と3のように、2つの数の組としてとらえることができる。

(数学的な考え方)

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	時間
<p>1 前時の振り返りをする。</p> <p>C1 4と5です。</p> <p>C2 2と7、またその逆です。</p>	<p>○前時の学習内容を想起できるようにする。</p>	<p>2'</p>
<p>問題場面</p> <p>10はいくつといくつでできているのかな</p>		
<p>課題</p> <p>いくつと いくつで 10になるか みつけよう</p>		

<p>2 問題を知り、課題をつかむ。</p>	<p>○これまで行ってきたことを確認した後、10はいくつといくつでできているのか問題提起する。</p> <p>○5から9と同じような形になるかどうか問いかける。</p>	<p>3'</p>
<p>3 ブロックを使って隠れたブロックはいくつゲームを行う。</p> <p>①1人がブロックを使って好きな個数を隠し、もう1人が隠れているブロックの数を当て合う。</p> <p>②結果をプリントに記入する。</p>	<p>○書画カメラを用いて活動の手本を見せる。</p> <p>○必ず隠れているブロックを数えるように指示する。</p> <p>○結果はペアと答えが合っているか確認してから書くように指示する。</p>	<p>15'</p>
<p>4 結果を発表する。</p> <p>C1 1と9です。</p> <p>C2 2と8です。</p> <p>C3 3と7です。</p>	<p>○1と9、2と8、3と7、4と6、5と5、またその逆の組み合わせが出るまで聞き、結果を随時板書していく。その際、始めから順に並べておく。</p> <p>評10を1と9、2と8のように、2つの数の組としてとらえることができる。(数学的な考え方)</p>	<p>10'</p>
<p>5 気が付いたことを発表する。</p> <p>C1 反対になっているよ。</p> <p>C2 鏡みたい。</p> <p>C3 片方が増えると、片方が減っているよ。</p>	<p>○階段になっている、鏡になっている、一方が増えるともう一方が減るなどに気付くようにおはじきで結果を視覚化する。</p> <p>○1と9、9と1のように数が逆になっているものがあることに気付くように、全部10になっているか確認する。</p>	<p>10'</p>
<p>6 本時の学習についてのまとめをする。</p>	<p>○10は1と9、2と8、3と7、4と6、5と5、またその逆の9個でできていることを確認する。</p> <p>○逆も同じく10になることを確認する。</p> <p>○一方が1増えると、もう一方は1減ることを確認する。</p>	<p>5'</p>

7 備考 在籍児童数 35名

8 板書計画

いくつと いくつで
10になるか みつけよう。

[きづいたこと]

- あかが1ふえると
あおが1へる
- 1と9 9と1みたいに
ぎやくになっても 10になる
- かいだんみたい